

豊橋技術科学大学長 殿

平成 18 年 2 月 27 日

審査委員長 大貝 彰



論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	リム イブ	学籍番号	第 9 8 7 6 5 3 号	
申請学位	博士(工学)	専攻名	環境・生命工学	
論文題目	地方都市における平休日交通行動の経年変化とその構造的要因に関する研究			
公開審査会の日	平成 18 年 2 月 20 日			
論文審査の期間	平成 17 年 9 月 12 日～平成 18 年 2 月 20 日	論文審査の結果	合格	
最終試験の日	平成 18 年 2 月 20 日	最終試験の結果	合格	

論文内容の要旨

本論文は、地方都市である豊橋市を対象として、過去4時点のパーソントリップ調査のデータを用いて、平日および休日における市民の交通行動の経年変化に関して分析した結果をとりまとめたものである。第1章の序論に続いて、第2章では従来の都市交通計画における交通需要予測の方法論についてレビューし本研究の位置づけと特徴を整理している。第3章ではトリップ生成原単位、トリップの空間分布、利用交通手段などの交通行動特性の経年変化実態を把握している。第4章では、各種交通行動特性の経年変化量を要因構成変化によるものと要因別交通行動特性変化によるものとして分解する独自の方法を提案し、それらの経年変化傾向を定量的に明らかにしている。第5章では、自由目的トリップ生成について、同一個人の日と休日の交通行動には相互関係があるという仮説に基づき、構造方程式モデルを適用することにより、平日と休日のトリップ生成行動の決定メカニズムを分析し、その経年変化特性を明らかにしている。結論部の第6章では、本研究の成果を要約するとともに今後の都市交通計画における交通需要予測のあり方について言及している。

審査結果の要旨

本論文は、今後の社会経済構造の変化をよりの確に反映できる交通需要予測方法の確立を目指し、豊橋市を分析対象として簡易調査を含む過去4時点のパーソントリップ調査データを用いて、平日および休日の交通実態の経年変化を定量的に把握するとともに、その構造的要因を分析し、人々の時間的・空間的な交通行動の変化について考察している。近年、多くの地方都市では、都市構造の変化や交通主体の属性構成の変化など、都市交通計画を取り巻く環境条件は大きく変化しており、それらへの適切な対応が求められていることから、交通行動の経年変化に着目した本論文の意義は大きいと言える。本論文は、膨大なデータの処理に基づいて地方都市における交通行動の経年変化特性を実証的に明らかにするとともに、同一個人が平日と休日に行った自由目的活動に同時に着目して、平休日間の相互関係を考慮した自由目的交通の生成構造を分析し、その経年変化特性について考察している。これらの研究成果は、今後の都市交通計画における交通需要予測モデル構築に対して示唆するところは大きく、その有用性は極めて高いと判断される。

以上により、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

大貝 彰



印

廣島 康裕



印

渡邊 昭彦



印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。